

授業科目名	美術の理解(2100118)		
時間割名	美術の理解(14104)		
時間割担当	松井典夫		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	月・4		

授業の目標・概要

美術に関する興味の萌芽が、よりよい学校教育に結びつくことを前提とし、美術全般に関する基礎的な知識と理論を学ぶことを目的とする。絵画(絵画・版画)、彫刻、デザイン、工芸、美術史のそれぞれに関して、具体的な作品の鑑賞とそこから生じる学校教育への可能性を模索し、最終的には美術の理解を基とした教材を開発することを目的とする。

学習の到達目標

絵画(絵画・版画)、彫刻、デザイン、工芸、美術史のそれぞれに関して、具体的な作品の鑑賞を通して基礎的な知識と理解をめざし、実践的な教育実践力に結びつくことを目標とする。

授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
2. 必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

授業計画

授業計画(1)

第1回 絵画(絵画) 黒や墨等の材料や諸技法、模写方法を学びながら、『国宝・鳥獣戯画』における白描表現の魅力を体感する。そのことによって、日本画の実技である模写について学ぶ。

第2回 絵画(絵画) 鳥剥製の写生を通して、自然の持つ造形の魅力を体感するとともに、水干絵具を使用した、日本画の基礎的表現技法を学ぶ。

第3回 絵画(版画) 東洋から西洋にわたる世界各地、各時代に発達した版画の技法と歴史的展開について概説し、現代社会の印刷媒体を形成した版画の理念について学ぶ。

第4回 絵画(版画) 《漁夫》(山本鼎・「明星」)に始まる創作版画運動を軸に、日本における近現代版画の展開を概説し、関連の作品を紹介しながら版画の存在について学ぶ。

第5回 彫刻 彫刻の歴史的展開を、様々な作品の鑑賞を通して、比較芸術論の視点を交えて概説することによって、各自の造形論を理論面から構築していく。

第6回 彫刻 主に、近畿地方の仏教彫刻に視点をあて、仏教彫刻及び博物館等の優品の鑑賞を通して、日本、東洋美術の彫刻に対する理解を深める。

第7回 デザイン 雑誌、テレビ等の視覚的イメージを、コミュニケーションのためのメディアと捉え、近代における芸術と文化の関わりについて学ぶ。

第8回 デザイン 現在の日本の美術、工芸、ファッションにわたる本質的な課題を、スペースデザインの立場から、文化と芸術の接点を中心に論考する。

第9回 工芸 近代日本における工芸の歩みを概観し、工芸の概念と実態がどのように展開されてきたのかを、具体的な作品の鑑賞を通して理解する。

第10回 工芸 明治から昭和にかけての工芸の歴史、変遷や、文化財保護制度設立から現在に至るまでを通して、近代以降の工芸制度、工芸をとりまく社会的状況を考察する。

第11回 美術史(日本美術史) 上古(縄文・弥生・古墳時代)～奈良時代盛期の各期に属する作品を鑑賞し、日本美術の展開について対局的な視野を体得していく。

第12回 美術史(日本美術史) 日本美術史の中から、工芸分野に属する作品を取り上げながら、その歴史を概観することによって、技法・技術のみならず、装飾技法や文様表現についても学ぶ。

成績評価の基準

授業計画（2）

第13回 美術史（西洋美術史） 古代から中世、中世からルネサンス、ルネサンスから近代への芸術上のパラダイムシフトを明らかにしながら、様々な様式の建築、絵画、彫刻作品について学ぶ。

第14回 美術史（西洋美術史） 主にヨーロッパにおける美と芸術についての思想を理解することによって、芸術作品の造形性・芸術性を多面的に理解する。

第15回 美術理解に基づいた教材との関連 実技と教育実践力、美術理論・美術史と教育実践力、教育学・心理学と美術教育について理解し、知識や教養を教育実践に生かすことの方法、意味について理解する。

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。（30％）さらに、芸術鑑賞の課外自主活動のレポートを評価対象とする。（30％）さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。（40％）

授業時間外の課題

美術に対する関心を高めるため、近隣の美術館に足を運び、授業理解に生かすこと。
美術に関する書物に触れ、レポートを作成し、美術理解に努める。

メッセージ

講義時間内にお伝えします。

教材・教科書

テキスト：授業者作成のスライド、芸術鑑賞カードなど

参考書

参考書：授業中に指示する